巻頭言

研究者であり研究所であるために考えたこと

理事（森林研究担当）　　桜井　尚武

独立行政法人は「国民生活及び社会経済の安定等の公共上の見地から確実に実施されることが必要な事務及び事業…を効率的かつ効果的に行わせることを目的として」行うものと「独立行政法人通則法」で規定されている目標を達成するために、中期計画を立てて日々の研究活動及びそれに付随する各種の業務を行っています。この業務を確実に行うためには、遂行力のある研究者が必要です。

研究者として認知されるには、まず学術論文を生産することが必要で、博士の資格も持っている方がよい。ついで、質の高い論文を量産して専門家としての評価を固める必要があります。このあと道が分かれます。

一つは、さらに研究の質を高め、幅を拡げていって先進的指導的研究者となる道です。このような研究者の存在は、研究所が研究所として認知され高い評価を受けるためには是非必要なことです。先進的な研究をしていない研究所が発言したところで、誰も言うことを聴いてはくれません。

もう一つは、身につけた専門的学識・技術をもとに通則法に示されている「必要な事務及び事業」を行う道です。これは研究所の存在価値を認めてもらい、更なる研究活動を行うための支持を受けるために必要なことです。多くの顧客は自分らに役に立たない組織の存在を認めてはくれないものです。

需要の動向を掴めと様々な分野の人達から言われるようになって、既に長い時間が過ぎました。それでもまだ私達には、自分を必要としてくれる人達がいて初めて自己の存在が認められるということが、充分に理解できていないようです。あるいは、理解できているとしても、その対応が充分でないようです。

色々な分野における数多の成功談に、如何に顧客の求める内容を掴みその実現に努力したかが鍵となった、ということが語られていることからもその重要性がわかります。

需要があって、それを満たすことで組織の存在が認められるのですから、需要情報を得るためには顧客の相談に乗り意見を聞かなければいけません。その需要を満たすためには満たせるだけの技量技術が必要です。移ろいやすい顧客の需要変化を着実に把握して、さらなる需要に的確に対応するために必要な新たな研究を進化・深化させなければいけません。

専門化すると囚われがちな個々の細かい話はさておいて、大きな全体の情況の中では今私たちが向き合っている課題がどれだけ重要なのかを判断できる識見を持ち、大きく変化する現代に私達が的確に対応しているかどうかを折に触れて確認するようにしたいと思います。